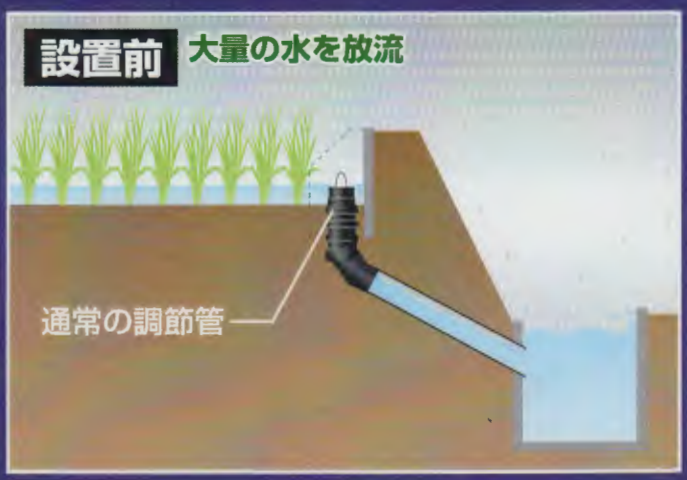
ニューフリードレーン150A対応

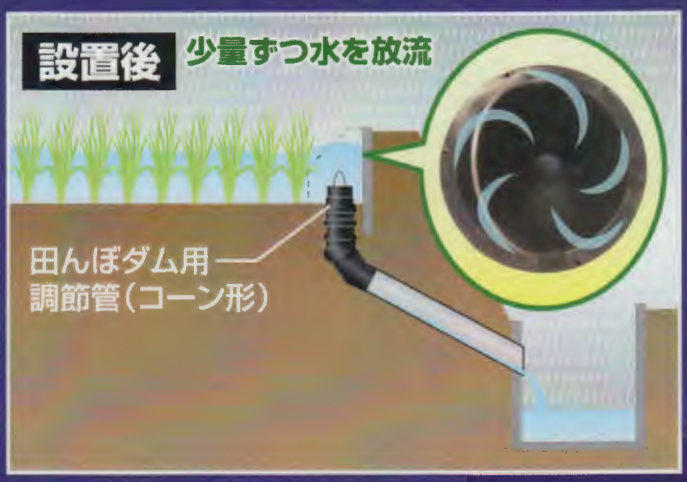
田んぼダム用 水位調節管 コーン形

豪雨時に雨水の一部を田んぼに貯水する機能を高めました。
下流域の河川の増水を遅らせ、冠水被害を抑える効果が得られます。

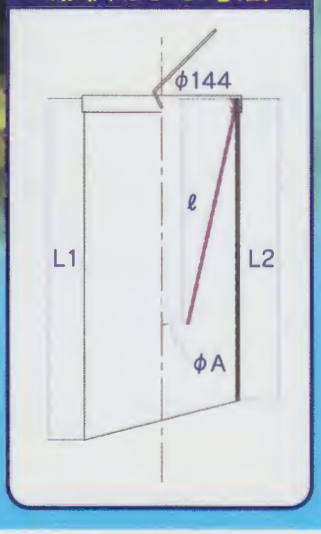
渦を巻いて水を放流します

排水量を抑制し、水位を自在にセット





形状および寸法



（単位：mm）

形名＼記号	L1	L2	A	ℓ
CNT-S（標準長）	345	305	50	230
CNT-L10（+10cm）	445	405		
CNT-L15（+15cm）	495	455		

発売元
NAVIC Co.,Ltd. 株式会社ナビック
エンジニアリング事業部
〒950-0064 新潟市東区松島1丁目4番2号 TEL:025-271-9550(代)

大規模降雨時の雨水流出抑制効果について

水田流出量算定モデルを用いて大規模降雨時の田面水位への影響を評価してみる。モデルとして2011年7月の新潟・福島豪雨を想定して、A)田んぼダム用水位調節管(コーン形)とB)通常の調節管の2通りの場合の田面水深を算定すると次の通りとなる。

(算定の諸元)

- ほ場面積:1(ha)
- 減水深　:15(mm/day)
- 水口と水尻の高低差:3(cm)
- 排水装置数:2箇所
- 田んぼダム用水位調節管(コーン形)の口径:50(mm)
- 田んぼダム無しの水位調節管の口径:150(mm)

新潟・福島豪雨のハイエイトグラフを図1に示し、管理水位面を基準(0mm)とした田面水深の変化を図3に示す。ピークの田面水位はA)田んぼダム水位調節管(コーン形)とB)通常の調節管で、それぞれ12.3(cm)と10.5(cm)となり、豪雨時でも過剰湛水への影響が小さく、田んぼダム機能を果たしている事が確認できる。

図1 降水量(mm)

H23年7月新潟・福島豪雨時の降水

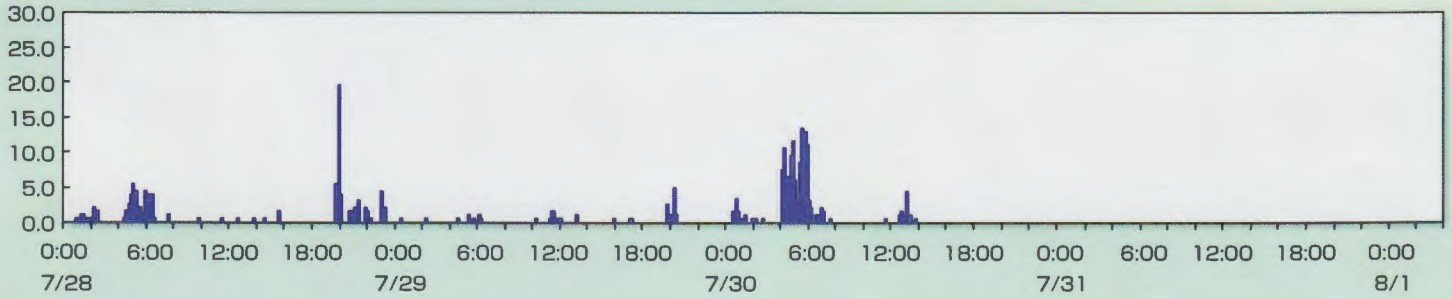


図2 累積降水量(mm)

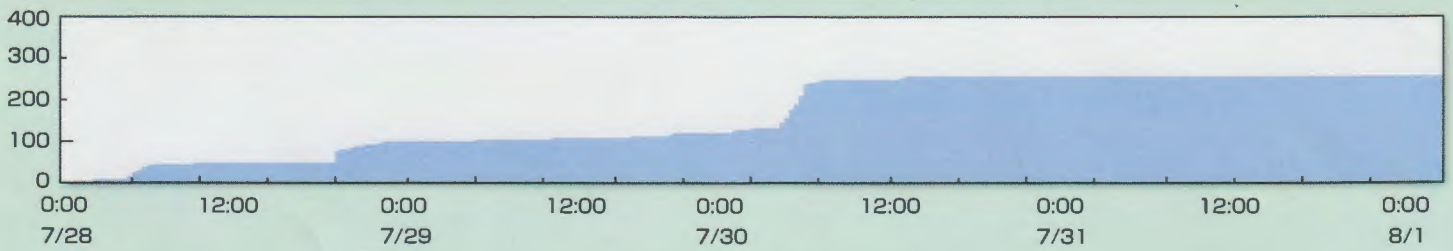
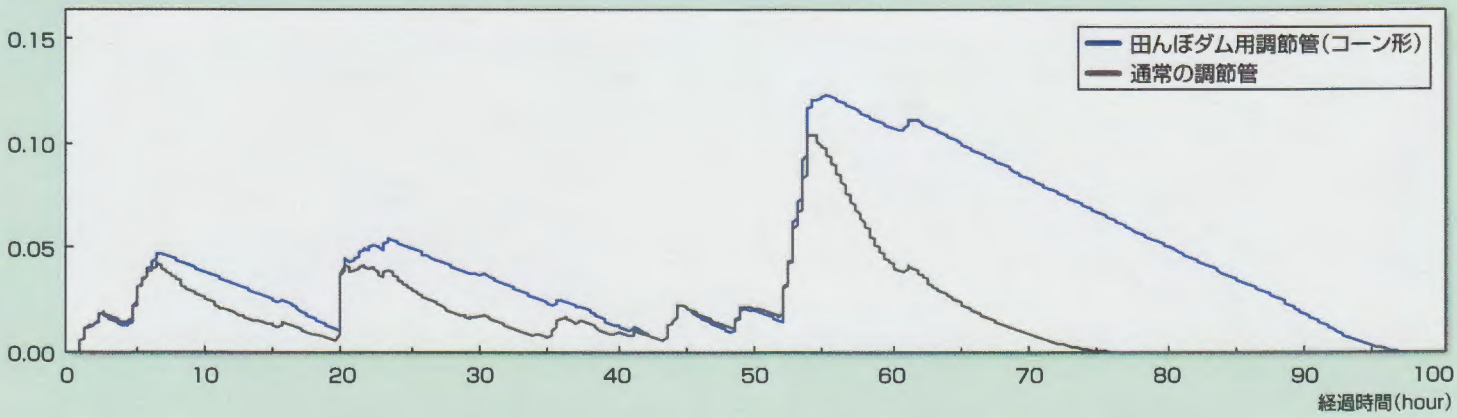


図3 管理水位を基準とした水深(m)

新潟大学農学部でのシミュレーション結果